

(ICTを活用した新たな街づくりの紹介－ 9)

ハローネイチャーズ大月の「シルバー ICT」によるまちづくり (大月ウエルネス・ネットワーク運営協議会) <http://hello-nature.jp/>

【概要】

大月市では、高齢者を担い手とした持続的に発展可能な超高齢時代の社会構築をめざし、SNSによる都市部の住民と大月の高齢者とのコミュニティの融合や、自然・農業体験による着地型観光の創出、高齢者の社会参画による生きがいづくりなど、高齢者がICTを利活用することで自らの知恵や技に新たな価値を見出す「ハローネイチャーズ大月」に取り組んでいます。

【コラム】

① 大月の強み

古くから甲州街道の宿場町として、甲府方面と富士五湖方面に分岐する交通の要衝として発展してきた街で、新宿から特急で1時間という都心からのアクセスも大変良い立地です。

トレッキングに最適な低山や、アユ釣りもできる清流、日本で最も富士山の眺めが良いという絶景ポイントなど豊かな自然に恵まれている地域です。

② 大月の課題

昭和40年代をピークに人口が減り、高齢化による地域コミュニティの在り方と地域の活力の低下が課題となっています。また農業人口の減少による遊休農地の増加も課題となっています。交通の要衝でありながら、観光地としての認知は十分ではなく、大月で下車をする観光客、継続して訪れるリピーターの少ないことが課題となっています。

③ ハローネイチャーズの取り組み

(1) 貸し農園による大月リピーターの創客、高齢者によるおもてなし

繰り返し大月に来てくれるリピーター創客のため、昨今の農業ブームに照準を合わせ、都市部の住民を狙った貸し農園をメイン商品としています。近年、都内でも貸し農園、市民農園が人気を博していますが、大月では広大な遊休農地を活用して40㎡程度の農地を年間6,000円～1万円程度の格安料金で提供することができます。

貸し農園を使ってくれる潜在的なお客さまの掘り起こしのため、まず大月市の自然を体験するさまざまなイベントを実施しました。トレッキングや川釣りをはじめ、土に触れる機会が減っている都市部の住民に農業体験や昔ながらの四季折々の伝統行事を体験できる低コストのツアーイベントを企画し、大月市に足を運んでもらうきっかけづくりを行っています。このイベントを運営し、都市部の住民のおもてなしをする主役は、大月市の元氣な高齢者が担う仕組みとなっており、都市部の住民と触れ合うことで、コミュニティの活性化を実現しています。農業イベントへのリピーターも獲得し、確実に大月市のファンが増えてきています。

(2) ICTの利活用

(1) SNSの活用

イベントに訪れた都市部の住民が大月市の元氣な高齢者と継続してコミュニケーションをとることを目的

として、SNS上に都市部の住民と高齢者の交流の場を設けています。高齢者のICT利活用に当たっては、「学びの場」というICT教育の講座を設け、タブレットの操作方法やSNSの利用方法などを段階的に体験し学んでいます。「学びの場」を卒業した高齢者が、タブレットを通して、SNS上でイベント時の写真をイベントに参加してくれた都市部の住民と共有したり、貸し農園契約者に対して高齢者が「里親」として農作物の生育状況を伝えたりすることで交流を深め、つながりを保ち続ける仕組みとしています。

(2) 農業センサーネットワーク

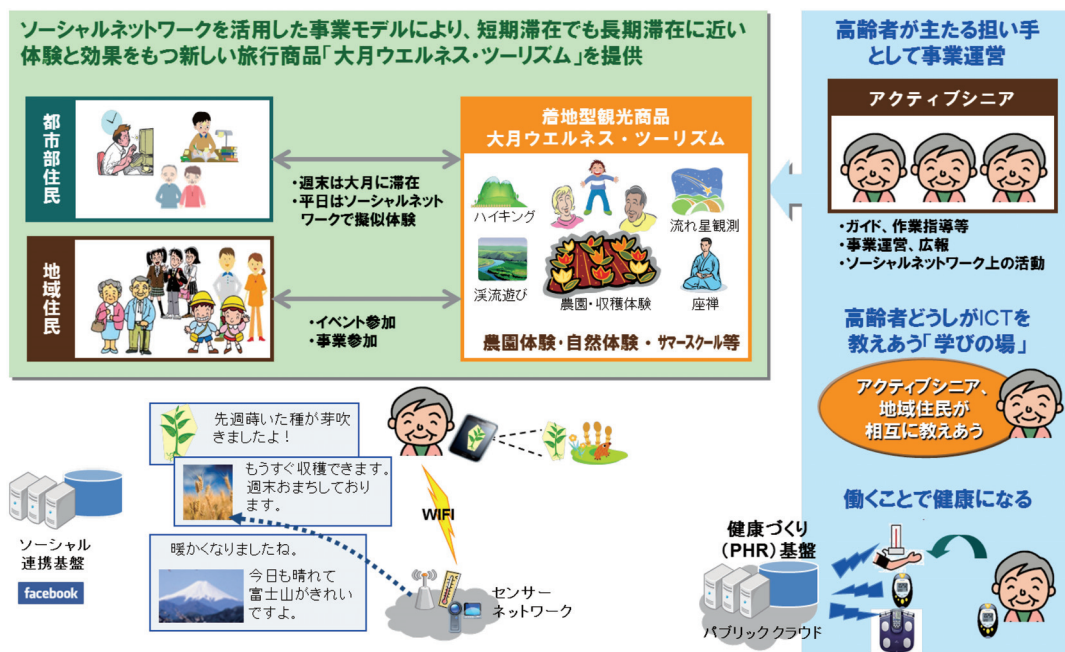
イベントフィールドの農地に農業センサーを導入し、イベントに参加した都市部の住民が、自分が植えた野菜がどのような生育状況なのか、リアルタイムに観察でき、継続的に農業体験に興味を持てる仕組みを導入しています。

(3) 健康づくりクラウド

高齢者のイベント参加や農業指導による健康増進効果を把握・分析するため、NTT東日本の「ひかり健康相談サービス」を導入し、活動を通じた健康の変化をICTで見える化することで、高齢者の健康づくりを促進しています。

④ シルバー ICTへの期待と今後の展開

ハローネイチャーズ大月は、全国の自治体が抱える高齢化の課題に着目した取り組みです。高齢者を核とした新たな着地型観光を行うことで、地域活性化・新産業創出といった経済効果だけでなく、高齢化社会を迎える際に重要となる高齢者の生きがいづくりや健康増進の効果も期待できます。超高齢社会においても、持続的な地域社会の発展を望む自治体に対して、このモデルを提供することは、豊かなまちづくりに貢献し、ICTのチカラを地域のチカラに変えていく取り組みといえます。



(問い合わせ先)

大月ウエルネス・ネットワーク運営協議会（大月市産業観光課農林業担当）

TEL:0554-20-1833

e-mail:otsuki@hello-nature.jp